

第4学年 道徳学習指導案

2組 計28人 (男子15人, 女子13人)

指導者 渡邊 貴久

1 主 題 名 学級のみんで (2-(3) 友情・信頼, 助け合い)
資料名「同じ仲間だから」(わたしたちの道徳 小学校3・4年)

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【低学年2-(3)】 友達と仲よくし、助け合う。
【中学年2-(3)】 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。
【高学年2-(3)】 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。
【中学校2-(3)】 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。
【中学校2-(4)】 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。

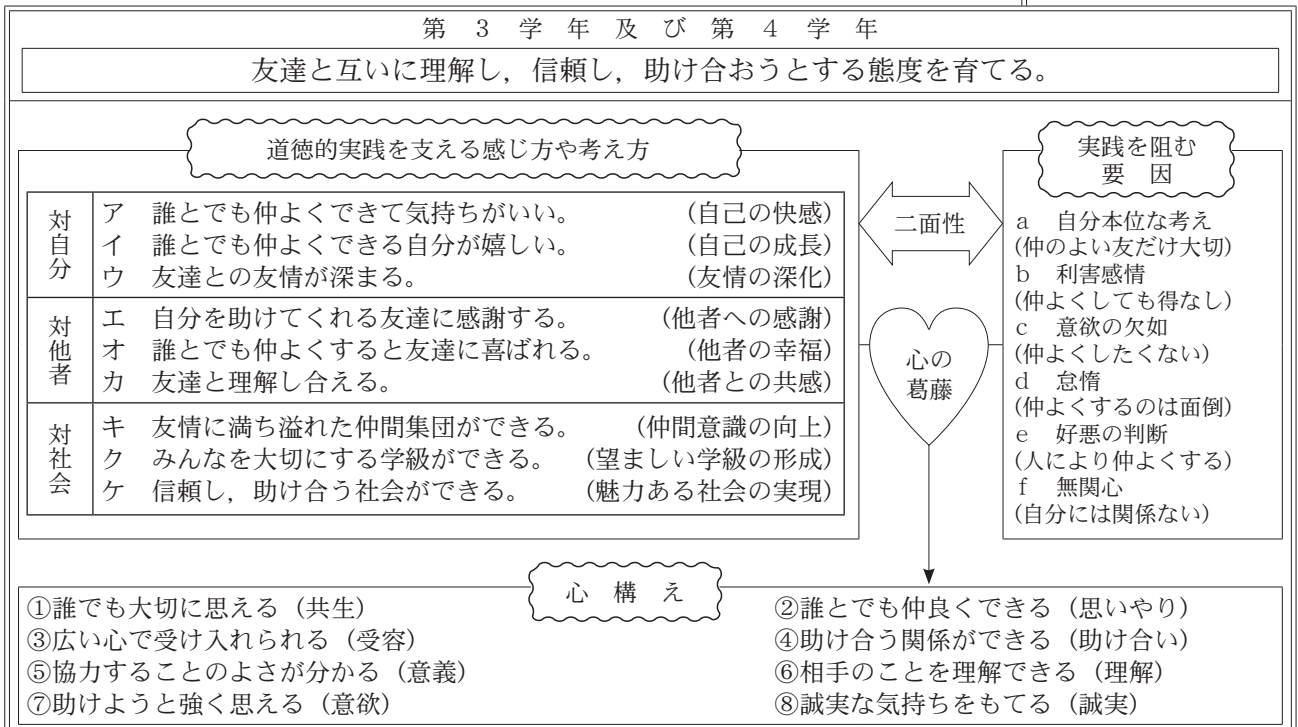
(2) 指導内容についての基本的な立場

友情は、互いに相手の立場に立ち、思いやり、助け合い、共に向上しようとする気持ちの中で育まれるものである。また、信じて頼ることは、人間関係を円滑にし、社会に適応できる態度や習慣を身に付けるための基礎となる。ここでは、子どもたちがよりよい友情を育てていきたいという願いを基に、お互いの思いや考え、行動を理解し、共に助け合い、仲よく過ごしていこうとするための大切な考え方を身に付けていくこととなる。

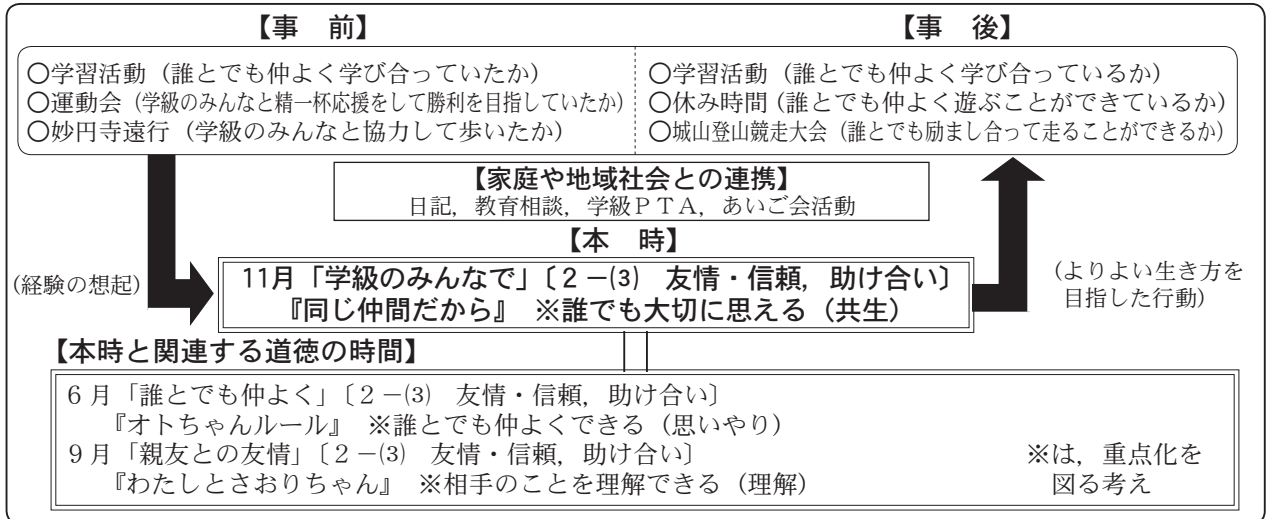
この期の子どもたちは、日常生活を送る中で様々な友達と関わりをもち、友情を深めようとしている。しかし、自分本位な考え方や利害の感情、好悪の判断、意欲の欠如、怠惰な気持ち、無関心などの心の弱さから、なかなか望ましい人間関係が築けないことも多くある。それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、友達のことを互いによく理解し、誰のことも広い心で受け入れていくなどの心構えが大切であることを伝えていく必要がある。

そこで、本主題では、相手の立場に立ち、相手の気持ちを押し量り行動することで友情が深まり、誰とでも仲よくしようとするよさに気付くことができるようにする。また、誰とでも仲よくしようとする中で、学級全体に友情の輪が広がり、明るく楽しい仲間集団を構成することにつながると理解することができるようにする。そうすることによって、今後も子どもたちが、学級のみんを大事にして過ごしていこうとする態度を育てる。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



(4) 本主題に関連する体験活動及び家庭や地域社会との連携等



3 子どもの実態

(調査人数28人 重複あり 平成27年9月4日)

(1) 本主題に関する経験場面①

友達誰でも大事にできた経験	人数
・ 誰かがけがをしたとき	9
・ 応援したり手伝ったり協力したりしたとき	8
・ 困っている友達に声を掛けたとき	6
・ 一緒に帰るとき	2
・ 相手に譲ることができたとき	2
・ 約束を守るとき	1

(2) 本主題に関する経験時の気持ち

友達誰でも大事にできた時の気持ち	人数
・ けがは大丈夫かな	11
・ すっきりしていい気持ち	8
・ うれしい気持ち	6
・ 心がポカポカした	2
・ みんなと心を合わせてがんばろう	2
・ 友達がいたほうがいいな	1

(3) 本主題に関する経験場面②

友達のことを大事にできなかった経験	人数
・ ケンカをしたとき	16
・ 自分と意見が合わなかったとき	4
・ 友達を助けられなかったとき	4
・ 悪口を言っていたとき	2
・ 無視をしてしまったとき	1
・ 時間を守ることができなかったとき	1

(4) 本主題に関する経験の理由

友達のことを大事にできなかった理由	人数
・ イライラして許せなかったから	17
・ 相手の気持ちや言い分を考えなかったから	6
・ 相手が悪いと思ったから	3
・ 忙しかったから	2
・ 自分のことしか考えていなかったから	2

(5) 道徳的価値の意義

なぜ友達をみんな大事にするとよいのか	人数
・ 今より相手と仲よくなるから	10
・ みんなが嫌な気持ちになるから	7
・ 仲間外れが起こるから	5
・ 友達を大事にすれば，相手も優しくしてくれると思うから	4
・ 一人だと寂しいから	2

(6) 道徳的価値に対する心構え

誰でも大事にするためにどんな考えをもつか	人数
・ 友達を助けたり優しくしたりして大切にすること	15
・ 仲間外れをせずみんな仲よく一緒に遊ぶ	7
・ 相手の気持ちを考えて行動する	3
・ 怒りをしずめられるようにする	1
・ だめなこといいことを相手に伝える	1
・ 八つ当たりしない	1

(1)から、学級のすべての子どもが、どんな友達でも大切にできた経験があり、それらは学校での場面を多く想起していることが分かる。(2)から、自分自身の心地よさを挙げている子どもが多いことが分かる。また(3)から友達を誰でも大切にできなかった経験も、多様にあることが分かる。(4)から、「イライラして許せなかった」等があり、自分の感情で行動してしまい、みんな誰でも大切にできない困難さが分かる。(5)から、「今より相手と仲よくなる」「みんなが嫌な気持ちになる」など、相手意識をもつ子どもが多いことが分かる。(6)から、「友達を大切にすること」という考えが多く、次いで「仲間外れをせずみんなで仲よく一緒に遊ぶ」という考えが挙げられていることが分かる。

この調査を踏まえ、本時では、まず学級のみならずで力を合わせている写真を提示し、友達を大切にできている場面に気付かせる。次にアンケートを基に、友達を大切にできないこともあるといった自らの経験を想起させる。そして、資料を通して相手意識をもって友達を大切にできることは、みんなが過ごしやすい学級につながることに気付くようにする。さらに、誰でも大切に思うことの見方や考え方を見つめることができるようにする。そのために、友達との「学び合い」を通して、自分たちの学級のみならずがどのような考えをもつことで、みんな過ごしやすいというよさを多面的に把握し「誰でも大切に思える(共生)」ことを深く理解できるようにする。その中から子どもが「大切にしたい考え」を見付け出し、これからの生活に生かしていきたい心構えを明確にできるようにすることで、道徳的実践力を高め、その後実践意欲を高めることにつなげていきたい。

4 資料について

(1) 資料のあらすじ

とも子の学級は、運動会の「台風の目」という競技の練習に夢中になっていた。しかし、とも子のグループには運動が特別苦手な光夫がいた。ある日、光夫が指を怪我しているのを見て、同じグループのひろしが練習を休むことを勧める。光夫は大丈夫だと言うが、とも子はどちらがいいか判断に困る。その時、転校した友達の手紙から、その友達が仲間外れになっても頑張るといふ気持ちだったことを思い出す。そのことでとも子は、光夫も同じ仲間だから一緒に頑張るべきだと主張する。そして、体育の時間に力を合わせて練習するのだった。

(2) 資料の分析・反応予想

場面	分析（価値構造図より）	予想される子どもの反応
1 光夫が練習に参加するべきか、しないべきかで迷うとも子 【迷い・心の弱さ】	ウ 友情の深化（対自） オ 他者の幸福（対他） ク 望ましい学級の形成（対社） ----- b 利害感情（仲よくしても得なし） e 好悪の判断（人により仲よくする）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 光夫も大事にしたい。 ・ 光夫を外すと寂しがるはず。 ・ 学級みんなと一緒にしないと。 ・ 光夫を入れると負けるかも。 ・ 光夫は参加しない方がいい。
2 光夫も一緒に練習するべきだと決断するととも子 【意義】	エ 他者への感謝（対他） キ 仲間意識の向上（対社） ク 望ましい学級の形成（対社） ----- ① 共生 ② 思いやり ③ 受容 ⑤ 意義 ⑦ 意欲 ⑧ 誠実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 光夫を大事にできて嬉しい。 ・ 光夫も一緒にできて喜ぶ。 ・ やっぱり学級みんなですべき。 ・ 誰でも大事に思わないと。 ・ 誰とでも仲良くしよう。

この資料は、運動の苦手な友達を仲間に入れるか入れないかで迷うとも子を主人公とした話である。団体競技で運動の苦手な友達を大事にして仲よくできるかという状況は、日常よくあることであり、本学級の子どもたちにも馴染みやすい資料であると言える。子どもたちは、自分であれば光夫を仲間に入れることができるかと自分に問い掛けることができるであろう。

今回、学級全員が友達を大事に思えないことがあったというこれまでの経験を振り返りながら、誰でも大切に思えるためにはどのような気持ちが必要かを考えることができるように、この資料を活用する。

5 指導に当たって

(1) 「自分事の問い」をもつための手立ての充実【研究内容1】

「気付く」過程では、「もっと学級の友達みんなを大事にするための『大切にしたい考え』は何だろう。」という子どもの問題意識を引き出すために、実態調査を基にしながら、大事にできた場面もあれば、大事にできなかった場面もあることを理解できるようにする。そして、みんな友達を大切にできない経験があり、なぜ大事にできなかったのか想起させ、「いつもできていますか。」と発問することで、一人一人に「自分事の問い」をもたせためあての設定につなげていく。また、ワークシートに記述したそれぞれのめあてを教師が見取ることで、その後の指導に生かしていく。

(2) 「自分事の問い」の解決につながる「学び合い」の設定【研究内容2】

「見つめる」過程では、「もっとみんなを大事にするための大切な考えとその理由について自分の考えを広げたり深めたりするため、自分の考えと友達の考えを比べる。」という目的と視点で「学び合い」を設定する。まず、一人一人が学級のみんなを大事にするためにどうしたらよいか大切な考えをワークシートに記入する。次に、その考えをグループで伝え合う。その際、「例えば」や「なぜなら」などの思考語彙を使うことで、自分の経験と照らし合わせて考えることができるようにする。そして、どの考えを学級に広めたいかを話し合い、グループシートにまとめる。その後、自分の考えを再度ワークシートに書くことで、「(学び合って)自分の考えをこれからも大事にしよう。」(強固)「相手の立場に立つという友達の考えを取り入れよう。友達の考えを参考にすると自分の最初の考えよりもよくなったぞ。」(付加・修正)など自分の大切な考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 自己の変容を実感できる評価の在り方【研究内容3】

「深める」過程では、「友情・信頼、助け合い」に関する道徳的価値の自覚及び自己の生き方を見つめ直すことができるようにするために、「大切にしたい考え」をワークシートに記入する。その際に、まず自分のめあてと「大切にしたい考え」を見比べることで、「自分事の問い」をもって学んだことがどのように広がったり深まったりしたのか振り返ることができるようにする。次に、その「大切にしたい考え」を具体的にどのような場面で生かしていきたいかワークシートに記入する。そして、学級のみんなと協力している場面をアニメーションで見るようにする。そうすることで、今後の生活に生かそうとする実践意欲を高めることができるようにする。

6 本 時

目標 学級の友達みんなを大事にすることのよさについて考え、もっと仲よくしていくこうとするとする心情を育てる。
 展開 □ は教師の言葉掛け [] は予想される子どもの反応 ◆ は重点評価項目 ☆ はICT活用の留意点

過程 (分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(1) 気付く (5) (2) 展 開	1 友達を誰でも大事に思うことが難しい経験についてアンケートを基に話し合う。 誰でも大事にできないときは、どんな理由からでしたか。 ・その友達と遊びたかったからです。 ・ケンカをしていたからです。 もっと学級の友達みんなを大事にするための「大切にしたい考え」は何だろう。 2 資料「同じ仲間だから」を視聴し、とも子の気持ちを中心に話し合う。 (1) 光夫を練習に参加させるべきかどうかで迷うとも子の気持ちについて話し合う。 とも子が返事に困ってしまったのは、どんなことを考えたからでしょう。 ・光夫が休んだら勝てるかもしれない。 ・入れると負けてしまう。 ・光夫は自分から遠慮した方がいいのに。 (2) 光夫も一緒に参加させた方がいいと思った気持ちを話し合う。 光夫も一緒に参加した方がいいと、とも子が思ったのは、どんなことを考えたからですか。 ・光夫を大事にできると嬉しい。 ・光夫との友情が深まる。 (3) 誰でも仲よくするための大切なお考えについて、自分の経験と重ねながら話し合う。【「学び合い」】 学級のみんなを大事にするための大切なお考えやその理由を広げるために友達と自分の考えを比べてみましょう。 互いに大事にしあえばいいと思います。 友達ともっと仲良くなると思うからです。 わたしは相手の立場に立って考えたいです。なぜなら今まで相手の立場で考えない人がいて嫌だったからです。 3 自分を見つめ、友達を大事にすることに關する「大切にしたい考え」を見付け出し、生活と結び付ける。【自己評価】 相手の立場に立って考えて行動するという考えを大切にしたいです。そして、友達とけんかをやる前やした後にこの考えを思い出したいです。 4 生活場面の様子をアニメーションで振り返り、今後誰でも仲よくすることについて実践意欲を高める。	☆ 学級の友達を誰でも大事にしているかのアンケート結果を電子黒板で提示したり、学級での取り組み場面の写真を提示したりすることで、経験場面を幅広く想起することができるようにする。 ○ 実態調査を基に友達を大事にできなかつたときの場面や理由を想起した後、「いつも誰とでも仲よくできていますか。」と、問い返しの発問をすることで、誰とでも仲よくすることへの問題意識を高める。 ○ 主人公が光夫も一緒にと決意した裏には、転校した友達からの手紙の存在があったことに気付くことができるようにする。 ○ ワークシートに「学び合い」の視点に対する考えを記述することで、学級のみんなを大事にすることについての自分の考えを明確にできるようにする。 ○ 「学び合い」の際、「例えば」、「なぜなら」などの思考語彙を活用し、互いに質問をしようことで、「誰とでも仲よくすることで学級のみんなが心地いい」という多様な道徳的価値に対する見方や考え方に気付くことができるようにする。 ◆ 学級のみんなで仲よくすることについての考えを広げているか。 【ワークシート・グループシート】 ○ ワークシートの自分のためあてと「大切にしたい考え」を線で結ぶことで、「大切にしたい考え」を表現し、「自分の問い」をどのように解決できたのか自己の考えの変容を振り返ることができるようになる。 ☆ 学級のみんなで協力したり声を掛け合って頑張っていたりする写真をアニメーションで視聴することで、実践意欲を高めることができるようにする。